

## 集団づくりのポイント！

### —実態を把握した上での集団作り—

#### 【問題意識】

2020年に、新学習指導要領がスタートして学校現場への要求も高まり、それに伴い求められるハードルもどんどん高まってきている。また、社会を取り巻く環境も複雑化し学校現場では、児童・生徒の実態の変化を十分に捉えきれず、加えて集団作りにも苦戦しいわゆる学級崩壊も深刻な問題となっている。特に都市部では、新卒者が児童・生徒、学級集団の実態を十分にとらえることができず、どのような対応を取ればよいか分からず出勤困難となる事例も多く報告されている。

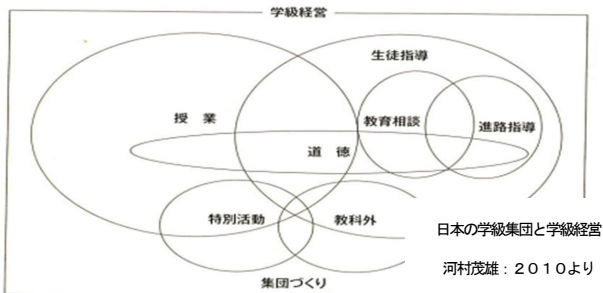
そこで、児童・生徒の実態を把握すること、それに併せてどのような方策をとるのかを考察していく。

キーワード：Q-Uテスト、ルール、リレーション

まずは、児童・生徒の実態を把握することである。

児童の実態を捉えるためには、観察をする方法、質問紙を用いる方法、実際に話を聞く方法がある。様々な方法を短時間で効率よく用いることが求められる。現場教師に求められるものは、あまりにも多い(図1)

### 学級経営のイメージ



(図1：学級経営のイメージ)

学級担任は、様々な事を同時に行って学級経営を行っていかなければならない。

そこで、Q-U (学級満足度尺度) テストを用いて学級の実態を把握し、その実態に合わせた方策を考える。

Q-Uテストとは、子どもたちの学校生活での満足度や意欲を知るためのアンケート (質問紙) です。その結果により、児童・生徒や学級集団の実態を把握する事ができる。Q-Uテストについての詳しい事は、今回は割愛する。加えてどの児童・生徒が学校生活を満足させていくためには、主に**ルール**と**リレーション**が挙げられる。

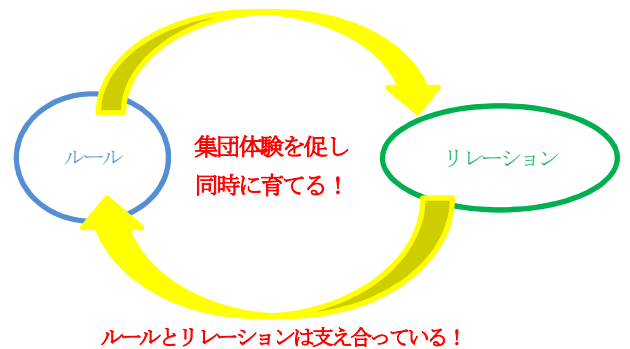
#### 1、ルールの構築について

子どもが安心して活動をするためのきまりである。これが守られているからこそ安心・安全にすることができる (例：悪口は言わない。発表は、話をせずに最後まで聞くなど)

#### 2、リレーションの構築について

お互いに構えない親しい人間関係のことである。このことがなされるとお互いを思いやる関係へとつながる。(例：友達に認められているから頑張れる、友達のためにクラスのためにやってみようなど)

ルールとリレーションは、児童・生徒が安心して学校生活を送る上で同時に育てていかなくてはならない。(図2)



(図2 ルールとリレーションに構築のイメージ)

実態を捉えた上で、ルールの構築が不十分だった場合は、ルールを再構築した上で検討・実践・再度検証していくべきである。また、リレーションの構築が不十分だった場合は、リレーションを再構築した上で検証・実践・再度していくべきである。そうすることで、理想の学級集団となっていくと考えられる。理想の学級集団の十分条件としては、次の5つが考えられる。

#### 理想の学級集団として

- ①親しい雰囲気がある
- ②他のグループと協力できる雰囲気がある
- ③のびのびと個性を發揮できる雰囲気がある
- ④活動ごとにふさわしいリーダーが選ばれる
- ⑤自発的に学ぼうという雰囲気がある

#### 【まとめ】

実態を正しく把握し、それに合わせてルールとリレーションを構築していくことが重要となる。そうすることで、理想の学級集団となっていくと考えられる。